

＜ A 表現 ＞

(2) 器楽の活動を通して

＊小学校学習指導要領「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

(4) 各学年の「A表現」の(2)の楽器については、次のとおり取り扱うこと。

ア 各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、学校や児童の実態を考慮して選択すること。

イ 第1学年及び第2学年で取り上げる身近な楽器は、様々な打楽器、オルガン、ハーモニカなどの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。

ウ 第3学年及び第4学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、リコーダーや鍵盤楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。

エ 第5学年及び第6学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、電子楽器、和楽器、諸外国に伝わる楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。

第2学年 A 表現 (2) 器楽

題材名「ききあいながらがっそうしよう」 教材名「こぐまの二月」

【第1学年及び第2学年の目標】

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

【第1学年及び第2学年の器楽の指導事項】

- ア 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。
- イ 楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。
- ウ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。
- エ 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ウ, エ

- ・オルガンや鍵盤ハーモニカなどの音色に気を付けながら、簡単なリズムや旋律を演奏する活動を通して、楽器の演奏の仕方を身に付ける。
- ・伴奏の音や他のパートの音、歌声を聴きながら、自分の演奏を全体の中で調和させて演奏する。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
○ こぐまの様子を思い浮かべながら、範唱を聴いたり歌ったりする。 ・挿絵や歌詞から、こぐまの様子や気持ちを想像し、言葉で教師や友達に伝える。 ・歌に合わせてこぐまの動作をしながら、聴いたり歌ったりする。 ・音符や休符についての確認をする。	拍の流れ
○ 主旋律を階名唱したり、鍵盤楽器で演奏したりする。 ・教師の範唱に続いて、階名唱をする。 ※階名唱の段階でも休符を意識して歌わせ、楽器の演奏に生かすようにする。 ・オルガン、鍵盤ハーモニカなどを使って演奏する。 ・伴奏に合わせ、拍ののって友達と合わせて演奏する。 ※鍵盤ハーモニカを使用するときは、同じ音が続く場合に、タンギングについてふれるとよい。	旋律 拍の流れ
○ 副次的な旋律を覚える。 ・教師の範唱に続けて階名唱をする。 ・教師の演奏する主旋律に合わせて副次的な旋律を階名唱し、聴き合って歌う（演奏する）ことに慣れる。	旋律

・階名唱をしながらリズム打ちをし、正しいリズムを覚える。 ・副次的な旋律を鍵盤楽器で演奏する。 ※鍵盤楽器を用いる際は、運指についても指導を行う(低学年から少しずつ身に付けるようにしたい)。 ・伸ばす音や休符を意識しながら、リズムに気を付けて演奏する。 ※主旋律よりも休符や伸ばす音が多いので、休符や音符の長さをそろえることをより意識させる。これにより周りの声(音)を聴くことや自分の演奏を全体の中で調和させることにつなげる。 ○ 三つのパートを楽器で演奏したり、歌と楽器で合わせて演奏したりする。 ・主旋律、副次的な旋律の特徴をそれぞれ確かめる。 ・三つのパートを楽器で合わせたり、歌と任意のパートとで合わせたりする。 ※歌に楽器の音色が重なるよさを感じ取らせたり味わわせたりする。 ・一人だけ大きな音を出さないように気を付けたり、音の長さや休符に気を付けたりして演奏する。 ・簡単なリズム伴奏をつくり、歌や楽器と合わせて演奏する。 (下記のリズム例 参照) ・音を聴き合って、演奏についての感想を伝え合う。 ・他のパートの音を聴きながら、自分のパートを合わせて演奏する。 (例) 	拍の流れ リズム 旋律 音色 リズム 拍の流れ
---	--

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の技能
・オルガン、鍵盤ハーモニカなど身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単な旋律を演奏しようとしている。 ・自分の演奏や友達の演奏におけるいろいろな音の響きを聴きながら、自分の音を合わせて演奏しようとしている。	・身近な鍵盤楽器に親しみ、拍の流れにのって、音色に気を付けて簡単な旋律を演奏している。 ・自分の演奏する旋律と他の旋律とを聴き合いながら、自分の音を合わせて合奏している。

各学年の「A 表現」の(2)の楽器については、小学校学習指導要領解説音楽編の p.73(4)で詳しく示されています。

本事例でも、旋律の演奏については鍵盤楽器を扱うようにしています。視覚と聴覚の両面から音を確認めつつ演奏できる各種オルガンや鍵盤ハーモニカ、また、息の吹き吸いと楽器本体の移動によって演奏し、音に対する感覚面の育成に適しているハーモニカなど、児童にとって身近で扱いやすい楽器の中から、学校や児童の実態に応じて選ぶことが大切です。

第3学年 A 表現 (2) 器楽

題材名「ゆたかなひびきを味わおう」 教材名「パフ」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

【第3学年及び第4学年の器楽の指導事項】

- ア 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。
- イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。
- ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
- エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア, エ

- ・ハ長調の楽譜を見て演奏する。
- ・主な旋律、副次的な旋律や様々な楽器の音色が生み出す響きやリズムを感じ取って演奏したり、合奏の楽しさを味わい気持ちを合わせて演奏したりする。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
○ 曲の感じをつかむ。 ・範奏を聴いたり、歌詞から場面を想像したりして、曲の感じをつかむ。 ・いくつかのパートに分かれていることに着目しながら聴く。 ・主な旋律の音色に注意したり、楽譜を指でなぞったりしながら聴く。 ・曲の構成を考えながら聴く。 ・曲を聴きながら、楽譜に色を塗ったり印を付けたりして、旋律の同じ部分や違っている部分などを見付ける。 ○ 階名唱をする。 ・主旋律の階名唱、その他のパートの階名唱をする。 ・範唱を手掛かりにして、階名唱をする。 ・楽譜を見て階名唱をする。 ※楽器演奏の場でも生かせるよう、階名唱をする際も、休符や音符の長さを意識して歌わせたり、旋律の特徴を感じ取らせたりする。 ○ 主旋律、副次的な旋律、低音パートを演奏する。 ・それぞれの旋律の特徴について捉え、その特徴に合った演奏を考える。	音色 旋律 反復 旋律

- それぞれの旋律の特徴に合った音の出し方を考える。 (音を伸ばす長さ、鳴らし方などを工夫) - リコーダーの、低いドとレの運指を覚え、息の強さに注意して音を出す。 ※低い音は出しにくいので、息の強さや穴をふさぐ指の角度など、子どもに試行錯誤させ、 きちんと音の出るポジションを徐々に見付けさせる。	旋律 音色
- リズムパートを演奏する。 - 手を打ってリズムを確かめたり、リズム打ちを友達と合わせたりする。 - 音色や音の大きさを考え、打楽器の組み合わせ方を工夫する。 - 曲の終わりで、リズムも終わる感じになるように考えてつくる。 - 拍に合わせてリズムパートのみで合奏したり、主旋律と合わせたりする。	反復 リズム
- 学級全体（または二つぐらいのグループ）で合奏をする。 - 主旋律と合わせる副次的な旋律を一つずつ増やしていくなどして、主旋律と他の旋律の音色の違いや音の重なりのよさを感じ取る。 - 拍の流れにのって、互いの音を聴きながら、気持ちを合わせて演奏する。 - 主旋律と合わせる副次的な旋律の組み合わせを考えながら、音の重なりを感じ取る。	音色 拍の流れ
※音や休符の長さや音を出すタイミングなどをそろえることが、気持ちを合わせる演奏につながることに気付かせる。 - 主旋律の特徴に合った音色の楽器を選んだり、音色や音の大きさを考えて楽器を組み合わせたりする。 - 互いに音を聴き合って、音のバランスや音色の重なりを感じ取りながら演奏する。 - 音を聴き合って、演奏についての感想を伝え合う。 - 音の出し方を試行錯誤しながら聴き比べ、旋律や曲想に合った楽器を選ぶ。	音色 音の重なり 拍の流れ
- 合奏の発表をする。 - 工夫した点を発表してから演奏する。 - 互いのグループの重なり合う音の響きのよさを見付けながら聴く。	

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・ 範奏を聴いたり、楽譜を見たりして演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 ・ 自分のパートと他のパートの音、伴奏などを聴きながら、自分の音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	・ 互いの楽器の音、リズム、複数の旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取っている。また、音の長さや休符を意識したり、音の出し方を工夫したりして、自分の考えを持って演奏している。	・ 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏している。 ・ 他パートの音や伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて合奏している。

第5学年 A 表現 (2) 器楽

題材名「曲想を生かして演奏しよう」 教材名「キリマンジャロ」

【第5学年及び第6学年の目標】

- (1) 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くようにする。

【第5学年及び第6学年の器楽の指導事項】

- ア 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。
- イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。
- ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
- エ 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → イ, ウ

- ・ 曲の前半部分と後半部分との曲想の違いを感じ取り、合奏による表現の仕方を工夫する。
- ・ スタッカートやレガートなど、楽曲の音楽的な特徴にふさわしい楽器の演奏の仕方を工夫する。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
○ 範奏を聴いて、曲の感じをつかむ。 ・ 曲全体から受けた感じや自分の気に入ったところなどを自由に発言する。 ・ キリマンジャロ山の写真などを見たり、説明を聞いたりしてイメージを膨らめる。 ・ 曲を聴いた印象を発表し合い、今後どのようにこの楽曲を表現するかについてのイメージを共有していく。 ・ 音楽を形づくっている要素と結び付けながら、前半部分と後半部分の曲想の違いに気付く。 ・ 曲全体の構造に気付く。 ○ 主旋律と副次的な旋律のパートを演奏する。 ・ 階名唱をしたり「La La La～」で歌ったりして旋律を覚える。 ・ リズムや楽曲の構成（リコーダーと鍵盤ハーモニカの掛け合い、リピート等）を確認する。 ・ リコーダーの運指、音を伸ばす長さ、スタッカート、タイ、ブレス位置などを確認するとともに、これらを意識しながら演奏する。	リズム 旋律 問いと答え 変化 旋律 リズム 問いと答え 変化

○ 曲想を生かした表現を工夫する。 - 前半部分と後半部分の曲想の違いについて話し合い、どのように演奏するか思いや意図を持つ。 - 表現を工夫する手掛かりを、楽譜や範奏を聴く中から見付け出す。 - リズム、強弱、楽曲の構造などから、どの部分をどのように演奏していくかという演奏の意図を、意見を出し合って明確にしていく。 - 同じパートの中、あるいは全体で、互いに聴き合い試行錯誤しながら演奏の仕方を工夫する。 - あえてスタッカートの部分をレガートにしたり、p を f で演奏してみたりすることで、表現の工夫や曲想について考える。 - 二つのグループに分かれたり数人が代表になったりして聴き合う活動を行い、表現の工夫に結び付ける。 - 各パートの旋律の特徴に合った楽器を選んだり、音色やリズム、音量バランスに気を付けながら演奏したりする。 - 曲想に合わせ、強弱などの変化を付ける。 ○ リズム伴奏を工夫する。 - 教科書の例を参考に、曲想に合ったリズムパターンを考える。 - 部分的にリズム伴奏を取り入れたり、前半部分と後半部分で楽器の組合せや数を変えたりするなど、リズムの取り入れ方を工夫する。 1 番かっこ（反復記号）の続く感じや、2 番かっこ（反復記号）の終わる感じを表現できるようにする。 - どのような曲想表現がされているかに気を付けて聴く。	問いと答え 変化 強弱 音色 リズム 強弱 リズム 音色 強弱 反復
---	---

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
- 前半部分と後半部分の曲想の違いを生かした表現やリズム伴奏を工夫し、思いや意図を持って演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 - それぞれの旋律の特徴や、様々な旋律楽器や打楽器の音色の特徴を生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	音色、リズム、旋律、強弱、問いと答え、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、前半と後半それぞれの曲想を工夫するなど、考えや意図を持って取り組んでいる。	- 前半部分の弾む感じ、後半部分の堂々とした感じなど、自分たちのイメージした曲想を生かした表現で演奏している。 - 演奏する楽器の特徴を生かして、鍵盤ハーモニカ・リコーダーなどの旋律楽器や打楽器を演奏している。

